

新しい意味研究の地平 全7巻、完結!

ひつじ 意味論講座

澤田治美 編

刊行のこ と ば

意味がことばの精髓であり、本質であるとするならば、意味とは何かを明らかにすることは、言語研究の究極の目標の一つと言えよう。本講座は、言語学を中心としつつも、それに限定することなく、様々な分野で活躍している第一線の研究者の論考を7巻に編集することによって、幅広い観点から意味の問題にアプローチし、これまでの意味研究を振り返るとともに、これからの意味研究のあり方を模索するものである。本講座が、意味への興味・関心を高めるきっかけになれば、編者にとって大きな喜びである。

私たちは、「意味」ということばをよく口にする。しかしながら、意味とは何であろうか。たとえば、「あなたの言っていることの意味がわからない」と言う時の「意味がわからない」は、しばしば「納得できない」と等しいし、「そんな意味で言ったんじゃない」と言う場合には、「発言の意図は別のところにある。誤解しないで欲しい」と訴えている。こうした例を考えてみると、意味が私たちの「心」のありようと深く結びついているかがわかるであろう（古くは、「こころ」という語には「意味」という意味があった）。

さらに、私たちは、しばしば「生きる意味」を問う。「生きる意味」を問うことは、ことばを超えて、人生とは何かという根源的な問題と向き合うことである。

名著『夜と霧』は、ユダヤ人としてアウシュビッツ強制収容所に囚われ、奇跡的に生還したウィーン精神医学者・心理学者 V. E. フランクルの生々しい体験記である。彼はある夜、灯りのない収容所で、極限状況に置かれた仲間の人たちに話をする機会を得た。そ

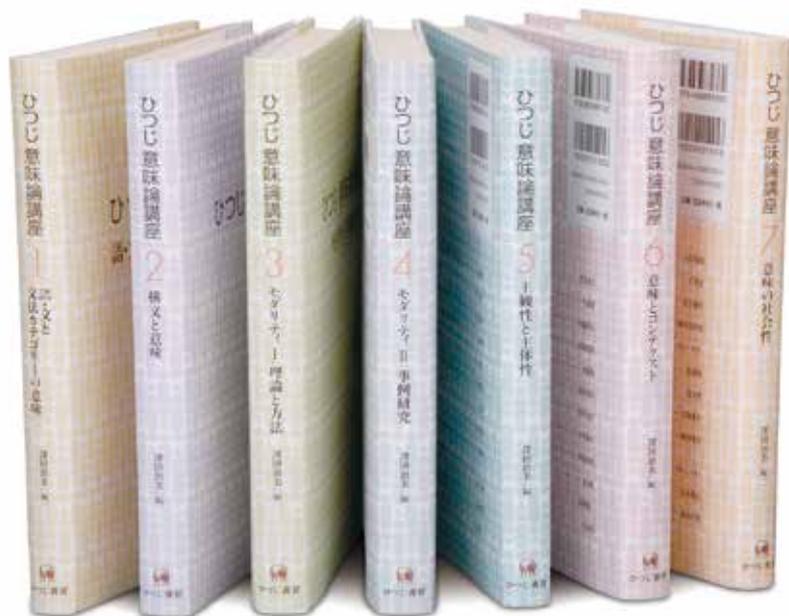
の時、彼は次のように語った。「人の命は常にいかなる状況のもとでも意味をもつ。そして、命の存在の無限の意味は苦悩と死をも含むものである」。『夜と霧』は私たちに意味の底知れぬ深さを教えてくれる。

ことばの意味を氷山に例えれば、海面に浮かぶ「文字通りの意味」は氷山全体の6分の1にすぎず、残りの6分の5が海面下にある。海面下とは、発話の場面であり、その人の置かれている状況であり、あるいは、社会であり、人生である。

言語学において、意味を研究する分野は「意味論」と「語用論」である。前者はコンテキストに依存しない意味を、後者はコンテキストに依存した意味を扱う。「コンテキスト」とは、文・発話を取り巻く空間的・時間的な脈絡・背景である。本講座では、4つの同心円的なレベルを設定することによって意味の問題にアプローチする。

意味は大海原である。それは深く、広く、時に大きく姿を変える。意外とも言えるかも知れないが、意味論講座と銘打った講座は、本邦はじめてのものである。学術出版のひつじ書房の20周年を冠する本講座によって、意味の深さ・豊かさが浮き彫りになり、あわせて現代社会が直面する諸問題に対して、「意味」という視点からアプローチすることができれば幸いである。

2010年5月 澤田治美



全7巻

A5判上製・カバー装

各巻 定価3,200円 + 税



ひつじ書房

第1巻 語・文と文法カテゴリーの意味

2010年12月刊行 ISBN 978-4-89476-501-6

- 1 語の意味をめぐって (国広哲弥)
- 2 多義性とカテゴリー構造 (松本曜)
- 3 文の意味と真偽性 (阿部泰明)
- 4 否定の諸相 (今仁生美)
- 5 日本語のテンスとアスペクトの意味の体系性 (須田義治)
- 6 ヴォイスの意味 (鷺尾龍一)
- 7 意味役割 (菅井三実)
- 8 動詞の意味と統語構造 (影山太郎)
- 9 形容詞の意味—「多い」を中心として (久島茂)
- 10 名詞句の意味 (西山佑司)
- 11 代名詞の意味 (神崎高明)
- 12 不定冠詞の役割 (樋口昌幸)

第5巻 主観性と主体性

2011年6月刊行 ISBN 978-4-89476-505-4

- 1 Subject—主語・主観—をめぐる哲学的断片 (大庭健)
- 2 モダリティにおける主観性と仮想性 (澤田治美)
- 3 日本語と主観性・主体性 (池上嘉彦)
- 4 主観性に関する言語の対照と類型 (上原聡)
- 5 文法化と主観化 (秋元実治)
- 6 日本語における文法化と主観化 (青木博史)
- 7 共同注意と間主観性 (本多啓)
- 8 英語形容詞の主観性 (八木克正)
- 9 日本語のダイクシス表現と視点、主観性 (澤田淳)
- 10 日本語思考動詞の主観性 (小野正樹)
- 11 日英語の主観性を表す副詞について (森本順子)
- 12 敬語と言語主体—敬意・主観性・モダリティ (滝浦真人)

第2巻 構文と意味

2012年9月刊行 ISBN 978-4-89476-502-3

- 1 認知のダイナミズムと構文現象
—認知的意味の反映としての構文 (山梨正明)
- 2 構文の意味とは何か (大堀壽夫・遠藤智子)
- 3 二重目的語構文と与格交替 (加賀信広)
- 4 使役構文をめぐって (高見健一)
- 5 結果構文の意味論 (小野尚之)
- 6 条件構文をめぐって (藤井聖子)
- 7 比較構文の語用論 (澤田治)
- 8 場所句倒置構文をめぐって (奥野忠徳)
- 9 壁塗り交替 (岸本秀樹)
- 10 中間構文の意味論的本質 (吉村公宏)
- 11 数量詞遊離構文とアスペクト制約 (三原健一)
- 12 コーパス分析に基づく構文研究 (李在鎬)

第6巻 意味とコンテキスト

2012年11月 ISBN 978-4-89476-506-1

- 1 直示とコンテキスト (渡辺伸治)
- 2 言語行為と発話のコンテキスト (久保進)
- 3 コンテキストと前提 (加藤重広)
- 4 意味と含み (清塚邦彦)
- 5 関連性理論とコンテキスト (東森勲)
- 6 論理の意味論におけるコンテキスト (野本和幸)
- 7 モダリティとコンテキスト (澤田治美)
- 8 メタファー理解プロセスと意味 (中本敬子)
- 9 とりたてとコンテキスト (野田尚史)
- 10 指示表現と結束性 (庵功雄)
- 11 感動詞とコンテキスト (富樫純一)

第3巻 モダリティI：理論と方法

2014年9月刊行 ISBN 978-4-89476-503-0

- 1 モダリティの定義をめぐって (ナロック・ハイコ)
- 2 論理学におけるモダリティ (飯田隆)
- 3 モダリティの類型論 (堀江薫)
- 4 日本語モダリティの分類 (仁田義雄)
- 5 文の意味階層構造と叙述の類型 (益岡隆志)
- 6 否定・疑問とモダリティ (安達太郎)
- 7 日本語モダリティの史的変遷 (近藤泰弘)
- 8 古代語のモダリティ (高山善行)
- 9 英語モダリティの分類と否定の作用域 (澤田治美)
- 10 ムードの意味 (安藤貞雄)
- 11 スペイン語におけるムードとモダリティ (和佐敦子)
- 12 フランス語におけるムードとモダリティ (阿部宏)
- 13 ドイツ語におけるムードとモダリティ (宮下博幸)

第7巻 意味の社会性

2015年7月刊行 ISBN 978-4-89476-507-8

- 1 社会システムと意味 (山口節郎)
- 2 記号論と社会学 (巨明志)
- 3 意味分析の拡大に向けて (児玉徳美)
- 4 呼称・人称と社会 (堀井令以知)
- 5 日本社会における在日外国人の本名と通名の意味
(リリアン テルミ ハタノ)
- 6 言語とジェンダー (クレア・マリイ)
- 7 翻訳の社会的意味 (影浦峯)
- 8 国語の共有と解釈すること—国語発想論的解釈 (北山修)
- 9 医療コミュニケーションと医療コミュニケーション研究
(野呂幾久子)
- 10 司法の場における言語使用 (堀田秀吾)
- 11 災害とコミュニケーション (名嶋義直)
- 12 選手とコーチの間のコミュニケーションに関する一考察
(東海林祐子)
- 13 「断り」の意味論と国語教育 (森山卓郎)

第4巻 モダリティII：事例研究

2012年6月刊行 ISBN 978-4-89476-504-7

- 1 英語法助動詞のモダリティ (柏本吉章)
- 2 英語モダリティと動機づけ (長友俊一郎)
- 3 未来性とモダリティ (吉良文孝)
- 4 日英語の認知的・証拠的モダリティと因果性 (澤田治美)
- 5 認知的モダリティとの意味的関連性からみた日英語の束縛的モダリティ (黒滝真理子)
- 6 認知的モダリティの意味と談話的機能 (宮崎和人)
- 7 意志表現とモダリティ (土岐留美江)
- 8 「のだ」の意味とモダリティ (野田春美)
- 9 終助詞とモダリティ (半藤英明)
- 10 副詞とモダリティ (杉村泰)
- 11 モダリティの対照研究—日本語と中国語を例に (井上優)
- 12 日本語教育から「日本語のモダリティ」を考える (守屋三千代)

ひつじ意味論講座 総目次

ひつじ意味論講座 総索引

